未来型解決能力を持つ地域の担い手を育成するＩＫＵＮＯモデルの開発

［研究開発の背景］

生野鉱山閉山から約50年。薄れゆく鉱山町としての意識・気概など「IKUNOプライド」継承に期待する声が大きく、地域の協力体制は手厚い。地域課題が山積する一方で「日本遺産」認定など、豊富な地域資源が日の目を浴びる追い風が吹くなか早急な「地域×高校」の学びのシステム構築が求められている。また、これからの未来に必要な「お金の知識」・「テクノロジー（未来の暮らし・仕事）」の知識習得に必要なカリキュラム作成を目指している。

コンソーシアムIKUNO協議会

生野高校 ＋

福知山公立大	朝来市	兵庫県教委	NPO法人いくのﾗｲﾌﾞﾐｭｰｼﾞｱﾑ
関西国際大	いくの自治協議会	全但バス株式会社	社会福祉法人いくの喜楽苑
但陽信用金庫	奥銀谷自治協議会	(株)シルバー生野	NPO法人日本ﾊﾝｻﾞｷ研究所
朝来市商工会	生野町観光協会	(株)ＺＭＰ	生野町温泉開発株式会社
生野中学校	生野小学校	生野こども園	

［令和３年度の目標］

自走できる組織・体制づくりの構築

● 全教員による職員研修会（４月－スタート時　１月－３年間の総括）

全職員での取組、誰もが指導できる体制づくり

●IKUNOモデル推進委員会の定期開催（月１回）

本事業・活動の方向性の確認・共有

カリキュラム開発の充実

● 指定事業終了後も自走できるカリキュラムの構築

地域学・お金の授業・テクノロジー
探究活動の授業プリントなどをワークシート集としてまとめる。

［成果］

●カリキュラム開発

カリキュラム開発等専門家の支援のもと、更なる改善を図ることができた。
授業プリントをまとめ、ワークシート集をホームページ上に公開することで、本校で開発したカリキュラムの公開・普及を図ることができた。

●取組の継続の見通し

文科省指定終了後も、コンソーシアムを核として引き続き取組を継続していく見通しを立てることができた。

●ゆめいくプロジェクトへ共通理解

「ゆめいく」と愛称をつけたことで、探究活動が親しみ易いものとなり、生徒・教員・地域が目標を共有することができた。
職員研修により、全教員で探究活動に関わる意識付けを図ることができた。
ゆめいくプロジェクトを全教員で創り上げる意識が醸成されてきた。

you make! ゆめいく!

●校内外の成果発表会への積極的参加

校内の成果発表会において、全員が発表者となってプレゼン発表を行った。
校外の成果発表会などにも積極的に応募し、発表会に参加した。
　全国高校生マイプロジェクトアワード西日本①大会
　HYOGO×WKCフォーラム高校生SDGs探究発表会（優秀賞受賞）
　探究甲子園　など

［課題］

●地域人材のさらなる活用

地域と学校をコーディネートし、地域の有用な人材を積極活用できるような仕組みの構築が必要である。

●コンソーシアム組織の維持

地域と協働して探究活動を行う上で、コンソーシアム協議会の存在は欠かせない。
新しい意見や視点を招き入れるために、メンバーの入れ替えを含め、組織の維持を図っていく。
コンソーシアム構成員と学校が、より深く意思疎通を図る必要がある。

●高等学校間の連携

「但馬地区高校生フォーラム」のような、近隣の高校が探究活動などの取組を発表し交流する機会を、単独の高校ではなく地域の高校が協働して創る。